

2025年11月30日 昼下がりの演奏会 #1  
於：CampGear&Cafe BASE

モデスト・ムソルグスキー Modest Mussorgsky

## 展覧会の絵

### Pictures at an Exhibition

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| フロムナード                       | Promenade   |
| 小人                           | Gnomus  |
| フロムナード                       | Promenade<br><i>Moderate comodo assai e con delicatezza</i> |
| 古城                           | Il vecchio castello   |
| フロムナード                       | Promenade<br><i>Moderato non tanto, pesante</i>             |
| テュルイリーの庭<br>— 遊びの後の子どもたちの口喧嘩 | Tuileries.<br>Dispute d'enfants après jeux                  |
| スイド口                         | Bydło   |
| フロムナード                       | Promenade<br>Tranquillo                                     |
| 卵の殻をつけた雛の踊り                  | Балет невылупившихся птенцов                                |
| サムエル・ゴールドンベルクと<br>シュムイレ      | Samuel Goldenberg und<br>Schumujle                          |
| フロムナード                       | Promenade   |
| リモージュの市場                     | Limoges. Le marché  |
| カタコンベ                        | Catacombae.<br>Sepulcrum romanum                            |
| 死せる言葉による死者への呼びかけ             | Cum mortuis in lingua mortua                                |
| 鶏の足の上に建つ小屋<br>— バーバ・ヤーガ      | Избушка на курьих ножках<br>(Баба - Яга)                    |
| キエフの大門                       | Богатырские ворота<br>(В стольном городе во Киеве)          |

## ●作曲家について

モデスト・ペトローヴィチ・ムソルグスキー(1839-1881)は、現在のバルト三国にほど近いロシア北西プスコフ州にあるカレヴォという村に、地主の次男として生まれた。ムソルグスキー家は伝統的に軍務についていた家系で、モデスト自身も軍人になるべく育てられていた。一方で、音楽の才能に気づいた実母より幼い頃からピアノの手ほどきを受けるなど、音楽の才能も着実に伸ばしていった。

士官学校に通い、のち軍人として勤務もしたが、多くの出会いの中で創作に夢中になった彼は、1858年に軍隊勤務をやめることを決意する。この間に会った人の中で、特にピアノの名手として有名であったミリイ・バラキレフは、わずか2歳上でしかなかったが、彼に10年間師事することとなる。

このバラキレフを中心に、ツェーザリ・キューイ、ムソルグスキー、そして後にボロディンとニコライ・リムスキー＝コルサコフが集まり、いわゆる「ロシア五人組」という作曲家集団が形成されることとなる。「五人組」は、従来のクラシック音楽の枠組みから離れ、先進的で、かつロシアに根差した音楽を作ろうという気概に満ちていた。

ムソルグスキーの主な作品は歌曲と歌劇が占めている。生涯で完成した歌劇は《ボリス・ゴドゥノフ》一昨のみで、ほか6曲はすべて未完に終わっている。器楽曲は極めて少ない。彼の有名な作品に『禿山の一夜』があるが、よく演奏されるのはリムスキー＝コルサコフによる改訂版である。ムソルグスキーの音楽は、後の作曲家クロード・ドビュッシーやオリヴィエ・メシアンなどに大きな影響を与えたが、一方でその独特な書法や技術はヨーロッパの伝統的な音楽理論の観点からは異質であり、未熟と捉える人も少なくなかった。彼の才能を何とかして世に知らしめようと、音楽理論を学んでいた盟友

リムスキー＝コルサコフによって、しばしばムソルグスキー作品に修正が加えられている。

## ●作品について

1873年夏に親友である建築家・デザイナーのヴィクトル・アレクサンドロヴィチ・ハルトマン(ガルトマン)の早すぎる死を迎えた。動脈瘤だったという。翌年開かれた遺作展の印象をもとに作曲されたこの曲が、組曲《展覧会の絵》である。1874年6月のたった3週間で書き上げられたピアノ組曲である。

後にさまざまな作曲家によって編曲され、特に有名なのは冒頭のトランペットによって奏でられる《プロムナード》の旋律が印象的な、モーリス・ラヴェルによる管弦楽編曲版であろう。他にもディズニーの『ファンタジア』で演奏されるのはストコフスキーによる編曲版である。オーケストラのみならず、プログレッシヴ・ロック・バンドのエマーソン・レイク・アンド・パーマー(ELP)による編曲・演奏も印象的であるなど、幅広く愛されている。

今回は、これら編曲版ではなく、ムソルグスキー本人による原曲である。オーケストラ版に親しんだ方にとっては、新鮮に聞こえる部分も多いだろう。原曲ならではの表現も多く、新たな魅力がたくさん発見できるかもしれない。

順を追って曲をみてみよう。

### プロムナード

Allegro giusto, nel modo russo, senza allegrezza, ma poco sostenuto = 正確なテンポで、ロシアの調べのように、陽気でなく、各音符の長さは保ち気味で、とある。

変ロ長調の2小節の単旋律に続いて、それに応えるように厚みを持った和音を伴う旋律が奏でられ、それは一人が歌った後に合唱が続くというロシアの合唱の形式を思わせるものである。このプロムナードは冒頭のみならず、組曲中の曲間に形を変えながらたびたび演奏され

る。展覧会の会場を絵画から絵画へと移動するときの様子であり、その時々感情が色濃くあらわれる。

### 小人

醜い小人の驚いたように飛び跳ね、動き回る様子が描かれる。明るい曲調のプロムナードから一転して始まる重く激しい曲調は、ムソルグスキーにとって青天の霹靂であったハルトマンの死をも髣髴させるよう。素早く動いては急に留まるような動き、また調性を揺るがそうとするような半音階的な動きに安定性は崩される。死を悼む悲痛な雰囲気を感じ取れるようにさえ思える楽曲である。

### プロムナード

Moderato comodo assai e con delicatezza = 大いに自由な気分で、そして優美に。過去の思い出を回想しているかのような、牧歌的な響き。

### 古城

吟遊詩人が中世の城の前で歌う、ノスタルジックな哀愁に満ちている。一曲を通して同じ低音（ベース音）が保続され、重々しい雰囲気がある一方、舟唄らしいリズム感もある。終わりの方には息絶え絶えのように途切れるようになる。ラヴェル版ではアルト・サクソフォンのソロでもお馴染みの曲である。

### プロムナード

Moderato non tanto, pesamente = あまり控え目になりすぎず、重厚に。これまでの雰囲気から一点、晴れやかさを感じる響き。旋律は途中で終わり、エコーのように反響して次の曲へと移る。

### テュルイリーの庭

#### — 遊びの後の子どもたちの口喧嘩

これまでの曲とは違い、高めの音域で奏でられる。リズムも軽やかで、全体的に明るい。ところどころに感じられる不安定さや、冒頭が再現されたと思ったらすぐに終わるといった部分

には、いかにも子どもらしさのようなものをも感じさせるよう。

### ブイドロ

ブイドロ（ビドロとも）は牛車のことだが、「家畜のように虐げられた人々」を比喩的に表すものでもある。対応する具体的なハルトマンの作品が全く不明で、もしかしたら、ロシア帝国の支配下で弾圧されていた当時のポーランドの人々を描いているのかもしれない。一步一步、重く踏みしめるような音型が印象的。冒頭のメロディは、ラヴェル版ではチューバやユーフォニウムなどで演奏されるのが印象的である。

### プロムナード

Tranquillo = 静かに。平穩に。ここでは短調で奏でられ、旋律は初めの2音が欠落している。だんだんと音域を下げてゆき、畳み掛けるように流れてゆき、最後には次の曲の予兆があらわれる。

### 卵の殻をつけた雛の踊り

この絵はバレエの衣装デザインのためのスケッチ。シンプルな和音に、さまざまな装飾音が与えられ、賑やかな曲調となっている。

### サムエル・ゴールドデンベルクと

#### シュムイレ

それぞれ、裕福なユダヤ人と貧乏なユダヤ人の典型的な名前。この二人の言い争いである。冒頭の高圧的なフレーズは裕福なユダヤ人、か細く震えるような同音連打のフレーズは貧乏なユダヤ人か。この同音連打は、ラヴェル版ではミュートをつけたトランペットが印象的。

### プロムナード

Allegro giusto, nel modo russo, poco sostenuto = 正確なテンポで、ロシアの調べのように、各音符の長さは保ち気味で。冒頭のプロムナードと調も同じで、似ているがところどころ省略や変更がある。

### リモージュの市場

リズムや和音の変化が目まぐるしい、色彩豊

かな活発な風俗描写。

### カタコンベ

カタコンベとは、地下に作られたローマ時代の共同墓地で、キリスト教徒の集会の場としても使われていた。楽譜は白い音符（二分音符や全音符など）が多く、古い時代の様式を思わせる見た目である。前曲の市井の生活感あふれる会話の様子から一転し、地下の空間に入り、死者の言葉へと変わってゆくのである。

### 死せる言葉による死者への呼びかけ

プロムナードの変形であり、あたかもムソルグスキーが親しかった故ハルトマンに何かを問いかけているよう。最後に現れる長調の和音は、まるで魂が安らかに天へ昇り行くさまを描いているよう。

### 鶏の足の上に建つ小屋ーバーバ・ヤーガ

「バーバ・ヤーガ（ヤガー）」はスラヴ文化圏の民話に出てくる、森に棲んでいる老婆の妖怪のようなもの。この奇抜な小屋に住み、助けてくれたり邪魔をしたりするという。ファンタジックで、神秘と不気味さが同居する。

### キエフの大門

キエフ（キーウ）に再建される予定だった大門（ボガティル門）のコンテスト用スケッチ。ハルトマンの案は絶賛されたが、再建計画自体がなくなったという。低音域で奏でられる鐘のようなモチーフが印象的だが、終盤では鐘が様々に鳴り響くかのように旋律が紡がれ、これはラヴェル版に無い表現となっている。それらの鐘は最後に収斂し、力強く曲を終える。

### **【演奏者】**

ピアノ：

浜本 麻実嘉（はまもと・まみか）

大阪音楽大学ピアノ演奏家特別コース4年生。第16回ベーテンピアノコンクール自由曲コース（大学・院生A部門）第2位、Beethoven Young Musician Competition Advanced Artist カテゴリー第1位など、国内外のコンクールで入賞。

演奏活動では、Japan Liszt Piano Academy「若きピアニストとの出会い vol.1」、ポラリス国際音楽祭「Next Talent『音の万華鏡』」、島村楽器グランフロント大阪「Flesh Talents! 煌めくピアノコンチェルト vol.1」、International Piano Camp Seoul 2025 修了コンサートなどに出演。また、第34回大東第九コンサートでコンチェルトのソリストを務めるほか、2025大阪・関西万博にて開催されたa-tune「e-Symphony in EXPO 2025 ~ Music Unites the World ~」ではプログラム内で独奏を行った。ライブハウスでも演奏するなど、活動の幅を広げている。

これまでに一本松直子、福井亜貴子、東桂子の各氏に師事。現在は赤松林太郎、阿見真依子、岡原慎也各氏のもとで研鑽を積む。また、小学生の頃からヴィルヘルム・ケンプの愛弟子、田村美和に師事し、秦はるひ、パリ国立高等音楽院教授イヴ・アンリ各氏の指導も受ける。

山岡トロイメライ音楽財団第1期奨学生。

今回のイベントについて、以下のQRコードのアンケートからぜひご意見・ご感想等お聞かせください！



主催：

合同会社リコラボ

代表 仮屋賢一（作曲家・俳人）

ウェブサイト <https://ricollab-create.com/>